

|                  |                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | 私の本棚                                                                                                                                                                                                              |
| Sub Title        |                                                                                                                                                                                                                   |
| Author           |                                                                                                                                                                                                                   |
| Publisher        | 慶應義塾大学理工学部                                                                                                                                                                                                        |
| Publication year | 2009                                                                                                                                                                                                              |
| Jtitle           | 新版 窮理図解 No.1 (2009. ) ,p.7- 7                                                                                                                                                                                     |
| JaLC DOI         |                                                                                                                                                                                                                   |
| Abstract         |                                                                                                                                                                                                                   |
| Notes            |                                                                                                                                                                                                                   |
| Genre            | Article                                                                                                                                                                                                           |
| URL              | <a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000001-0007">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000001-0007</a> |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 私の 本棚

My favorite books



## ● PRINCIPLES OF NEURAL SCIENCES

大学院時代にデンマークのオルボー大学感覚運動統合センター（大学自体は理工学系です）に半年留学した。そこでの授業の教科書がこれ。神経科学の分野ではスタンダードな教科書だった。授業でどういふふうに脳科学を理工学系大学で教えるのか、ということを体験でき、理工系の教員をめざしていた自分としてはとても感銘を受けた。研究室で、4年生がまず最初に勉強するのはこの本から抜粋した、いくつかのチャプター。

## ● 先端医療シリーズ リハビリテーション医学

最近のリハビリテーション医学で試みられている様々な医学研究をまとめた本。最近の研究の潮流が分かる。研究室に入ってきたときに学生たちに読んでもらっている。研究のアイデアを練るときに色々読んだ。

## ● MATLAB 5 FOR ENGINEERS

大学生のころ、アメリカの夏期講習に参加したときに、ハーバード大学近くの本屋で見つけた本。たくさんの学術書が、きれいな装丁とともに本屋の隅々まで並んでいて感激。日本の本屋だと、学術書は少ししかなかったり、あるいは本が堅苦しくて地味でとっつきにくかったりしたが、この本屋で学問の世界に対する意識が一変した。おしゃれが大好きなそのへんの若者、といった風体の人たちが難しそうな本を品定めていて、こういう感性が学問の世界にもあっていいのか、と思った。研究室では Matlab を使うと聞いていたので、勉強のために買った。そのときの思い出が蘇る、ということもあり大切にとってある。

● **ブレイン・マシン・インタフェース** 最近取り組んでいる研究に関する日本語の書籍。少し専門的だけど、どこかの拠点がどんなことをやっているかを俯瞰するために読んだ。

● **人工生命** 高校生のとき、放課後に隣の大学の本屋へ行ってコンピュータや脳の関連書籍の棚を眺めていた。高校までは教えてくれない学問の世界があつてものすごく興奮した。はやくコンピュータと脳（生命）という融合的な学問を学んでみたいと思った。ある日棚にこの本があつた。人工生命という分野が流行った時期で、著者紹介をみたらその大学の大学院生が翻訳者だと知ってビックリした。大学に進めば、こういう先端の本を翻訳するようなことまでできるのか、と驚いて、大学というもののへの憧れが高まった。知りたいと思っていた融合的学問だったこともあって、むさぼるように読み、中に入っていたお試しプログラムを自分の PC で走らせて遊んだ。

● **人体の不思議 驚異のメカニズム (DVD)** 脳や筋肉といった体の内部のことを外側から計測して推し量る、という研究は、学術論文のレベルでは、グラフや数字ばかり。そのため、せっかく研究しても他分野の研究者や一般の人に内容が伝わりづらいことがあるので、こういう映像資料を参考にしながら、見よう見まねで CG アニメを作ってみようと思っている。ナショナルジオグラフィックが作る映像の数々は留学先でもたびたび見ていたが、学術的に質の高い内容をわかりやすく社会にアウトリーチする素晴らしさに共感していた。

## ● 脳の中の幽霊

大学時代、脳のふしぎさに触れて感心した読み物。四肢欠損した人が、欠損した指が顔にあるような錯覚を感じる、と訴えるので、それを治療する方法を編み出した研究者の話。臨床での出来事を、科学的に落としこんでいってイノベティブな成果に結びつけていった過程が科学者としてすごいと思った。脳も、機械と似て電気信号で情報をやりとりしていて、細胞同士がネットワークを作っているという物質的な構造が存在するのにも拘わらず、現象がどんどん創発／変質していく（大人の脳であつても）。「線が切れたら故障」という機械とは全く違う、という点に魅了された。